環境報告書 2015

マックストン株式会社

＜目　次＞

ごあいさつ　・・・・・・・・・・・・・・・・・　2
会社概要・事業概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・　3
品質方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

環境マネジメント

環境方針　・・・・・・・・・・・・・・・・・　4
環境マネジメントシステム運用状況　・・・・　5
環境目的・目標達成状況結果　・・・・・・・・・　6
環境負荷データ・CO_2排出量　・・・・・・・・・・　7

環境パフォーマンス

環境保全活動　・・・・・・・・・・・・・・・・・　8
環境配慮型製品への取り組み　・・・・・・・　10
緊急事態の対応訓練・準備　・・・・・・・・・・　13

ごあいさつ

当社が環境ISOに取り組んでから13年目、社員一人ひとりが日々の企業活動や市民生活の中で、「限られた資源やエネルギー」の効率的な利用を意識し、廃棄物の5R（ごみを減らす・再利用する・再資源への提供・不要なものはもらわない・修理して長く使う）活動を地に着いた行動として継続的に実践し、企業市民としてライフサイクルを通した環境負荷低減の取り組みを継続しています。

これらの活動が経営に直結するものは多くはありませんが、これからも裾野を広げ、協力会社や関係会社にも理解と協力を呼びかけ、循環型社会に意識を持って貢献していきたいと思います。

2011年の歴史に残る大規模な震災から5年、地球の自然災害の脅威を再認識しながら、私たちはこの自然の中で生きる暮らし方を改めて模索しています。電力逼迫から急務となった『節電』には、企業も、家庭も、一人ひとりも、一丸となって取り組みました。

当社では将来のあるべき姿として描いた「地球と調和した人類の豊かな生活の実現」に向け、これまで以上に事業経営と環境経営の一体化を進め、サプライチェーン上のさまざまな環境影響を把握し、事業の継続的成長と環境負荷低減の両面で、なるべく具体的な目標を掲げ実行してまいります。

このたび「環境報告書2015」が纏まりました。
継続して地球環境保全に関する取り組みのほか、コンプライアンスや労働安全衛生など、社会的側面に関する活動についても、情報開示の更なる充実を図るよう考えています。

事業活動に投入する「エネルギー」や「諸資源」、排出される「CO2」や「廃棄物」の削減を継続して進めながら、支店・営業所を含めた各拠点に環境リーダーを育成し、環境マネジメントをグループ全体で強化し、企業の社会的使命を果たすために、広く地域社会に貢献し、期待され・信頼され・愛される企業として、新しい価値を創出し、さまざまなステークホルダーと連携して持続可能な社会の発展に貢献出来る提案をして行きます。

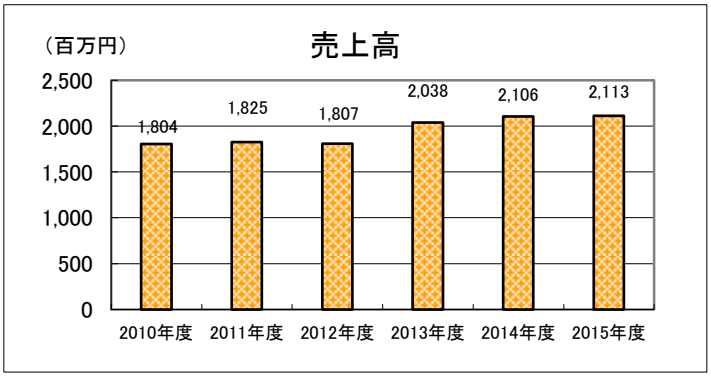
対象組織：マックストン株式会社
報告対象期間：2015年4月1日～2016年3月31日

会社概要・事業概要

会社概要

会社名 ： マックストン株式会社
所在地 ： 〒417-0001 静岡県富士市今泉3650－2
TEL： 0545-21-1110
FAX： 0545-21-0064

設立日 ： 昭和62年11月
資本金 ： 1，000万円
売上高 ： 2，113百万円
代表者 ： 佐藤千枝子
従業員 ： 23名



事業概要

当社は、コンクリート板を主とした屋外・屋内用(地面、屋根、バルコニー等)コンクリート製品の設計・開発及び製造並びに販売、施工支援を提供しております。

主要製品

屋根防水仕上げ保護材	床舗石シリーズ・防草対策機能付法面保護材
・「ルーフマット」シリーズ〈不燃認定番号NM-9319〉 ・「e－デッキ」シリーズ 〈不燃認定番号NM-4192〉 ・「S－デッキ」シリーズ 〈不燃認定番号NM-3955〉 	・舗石平板(コンクリート系) ・縁石(コンクリート系) ・平板(コンビネーション＝天然石貼り) ・グラストップ（コンクリート系）
コンクリート擬石連結金網	**屋上緑化用部材**
・ハングブロックマット 	・ジョインロック、リーガルミニ(コンクリート系)

品 質 方 針 ・ 2016

我々は、「ルーフマット」を中心としたコンクリート二次製品の開発・製造・供給の事業でお客様から満足と信頼をいただくと共に、品質マネジメントシステムの向上と人材の育成を通して企業文化を維持し、社会への貢献を達成する。

1. 品質を重視し、責任を持って仕事を確実に行い、お客様に信頼され、満足いただける製品を供給する。この為の素早い対応と努力を惜しまない。
2. 構築した品質マネジメントシステムを有効に運用し、継続的な改善に努める。
3. 品質目標を設定し、この目標を達成するための活動を計画し実行する。マネジメントレビューをはじめ、PDCAサイクルを適切に継続運用する。
4. 品質方針・品質目標を全ての関係者に周知させ、理解されるよう啓蒙に努める。
5. 常に変化する市場の動向や、お客様の要求・期待、企業の社会的責任の観点から、事業活動の中でノウハウを蓄積し、専門性を高め、システムの適切性を持続するために必要な取り組みを継続的に実施していく。

制定日　2001.10.15
改定日　2016.04.01

環 境 方 針 ・ 2016

当社は、コンクリート二次製品を主とした開発・供給の企業活動と市民生活を通じ、経済成長と環境とのバランスが重要課題と認識し、自然と人間の調和を自らが責任を持ち、身近なことから一歩ずつ取り組み、この維持向上に努める。

1. 全社で省エネルギー、廃棄物の排出抑制・リサイクル化を目指し、廃棄物の発生量削減、使用エネルギー及び資源の効率的な利用、再生可能エネルギーや分散型エネルギーの研究と活用に取り組む。
2. 業務に関わる環境関連法および同意事項を順守し、環境汚染の予防に努める。
3. 環境目的・環境目標を設定し、その実現を図り、実現状況を毎年見直して、目標達成のための改善とシステムの継続的改善を実行する。
4. 環境方針・環境目的・環境目標を全ての関係者に周知させ、理解されるよう啓蒙に努める。
5. 環境に配慮した技術と製品の開発に、全ての関係者が継続して注力する。

制定日　2006.06.26
改訂日　2016.04.01

環境マネジメントシステム運用状況

当社は、2007年1月、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得し、システムの継続的改善に努めております。

コンプライアンス（法令順守）

当社に適用される法令や条令の要求内容を特定する手順を定め、年1回順守評価を実施し、規制を外れることの無いよう維持しています。
また、法的及びその他の要求事項として文書化し、社内へ周知しています。

内部環境監査

外部講習機関の内部環境監査員養成研修を受講し、合格した監査員によって内部環境監査を実施しています。その中で、ISO14001規格への適合性、運用状況等の確認をし、監査結果については、マネジメントレビューにより改善へと繋げています。

【2015年度監査結果】

2015年度内部監査は2015年6月29日・2016年1月12日に本社事務所で実施しました。
監査目的は、［EMSがどのように実施され、維持されているかについて、ヒアリングをしながら適合を確認し、その中での「継続的な改善」についても確認していく］でした。

6/29　監査結果
重大不適合　1件
軽微不適合　1件
観察事項　0件

1/12　監査結果
重大不適合　0件
軽微不適合　0件
観察事項　1件

外部審査

年1回、第三者機関による外部審査を受け、認証登録を継続しております。

	内部環境監査指摘件数			外部審査指摘件数		
	重大不適合	軽微不適合	観察事項(OB)	重大不適合	軽微不適合	観察事項(OB)
2010年	5	1	3	0	1	2
2011年	1	4	5	0	0	3
2012年	2	1	0	0	1	5
2013年	0	0	0	0	0	1
2014年	1	0	0	0	0	2

【2015年度外部審査報告】

第3回再認証審査が2015年11月11日～12日に行われました。

［審査結果］
重大不適合　0件　　軽微不適合　0件　　観察事項　1件

環境目的・目標達成状況結果

≪2015年度　環境目的･目標と結果≫

環境側面	環境目的	2015年度環境目標	目標達成状況/変化量（　）内は2010年度比	目標達成度	備　考
電力	電力使用量を2015年度末までに2010年度比で3%削減する。	電力使用量を2015年度末までに2014年度比で1%削減する。	電力使用量 ／ -0.5%　（-21.5%）	△ （◎）	2015年度の電力使用量は、前年度比でほぼ横ばい。12月末の空調改善工事による『ロスナイ換気』や天井上の空気層断熱効果が期待されるが、現時点で電力消費量の削減に寄与はしていないものの、夏季の大幅な電力消費量削減が期待される。今後1年を通しての評価をしていく。 コピー用紙使用量については、業務の増減がダイレクトにコピー用紙使用量に直結。電子受発注の推進は進んでいるものの、顧客の電子発注システムの運用が進むことにより、コピー用紙の使用量が増えてしまうこととなるため、新たな視点での対策検討が必要である。 ■環境目的達成度について（2010年度比） 2010年度比で電力少量やコピー使用量が目標達成。経営者による環境改善のための設備投資（空調改善工事など）の効果や社員一人一人の意識の向上の積み重ねが結果に繋がったと評価できる。
コピー用紙使用量及び廃棄量(受発注業務の効率化)	コピー用紙の再利用を推進する。	裏紙利用可能な用紙を利用促進する。 使用済みコピー用紙は再生業者へ提供する。	提供量調査 ／ —	△	
	コピー用紙の使用量削減の実施。	支店・営業所の電子媒体などを活用し、受発注業務等の効率化を具体案件として1件／年以上の改善を目指す。	使用量調査 ／ ±0.0%　（-10.3%）	△ （○）	
	顧客、支店・営業所間の業務の効率化を図る。		ハウスメーカーを中心に電子受発注システムの運用が確立されつつあるが、今まで郵送で送られてきた図面関連はシステム内から図面データを入手し、印刷するためコピー用紙使用量の削減には直結せず増加してしまう要因に。		
産業廃棄物 一般廃棄物 ※一般廃棄物の処理も産廃処理業者へ依頼	一般廃棄物の分別を徹底し、削減案を検討する。	継続的に分別について検討しながら、更に分別方法の細分化検討を行う。 廃棄物分別の徹底。（配送業者への教育・指導の徹底） 各現場でのゴミの分別処理の推進。 ○前年度比2%の削減を目指す。	廃棄量調査（ガラ） ／ -15.45%　（-21.8%）	○ （○）	コンクリートガラの減少はルーフマット新設工事の減少に直結しており、ビニール・プラスチック廃棄量の増加は二重床システム物件の増加の影響が大きいと推測されるなど、5年前とは業務形態も変化していることがデータから読み取れる。今後も廃棄物分別の徹底や敷設現場での分別処理の推進をし、廃棄量削減行動を継続していく。 ■環境目的達成度について（2010年度比） 業務形態の変化で各種の廃棄量が変化するため、廃棄量削減のための行動が数値に反映されているのかの判断が難しくなっているため、今後の目標設定方法について再度見直しを図っていかなければならない。
			廃棄量調査（紙くず、事務所ゴミ） ／＋20%　（-40%）	× （○）	
			廃棄量調査(ﾋﾞﾆｰﾙ・ﾌﾟﾗ) ／ ＋11.6%　（＋9.1%）	× （×）	
			提供量調査(ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ・ｽﾁﾛｰﾙ) ／ ±0.0%　（-71.4%）	—	プラスチック・スチロール提供量の減少については、ルーフマット工事の減少が大きく影響しており、段ボール提供量については、旭化成外階段シートフロア工事、住友林業新築工事におけるタイルユニット（他社製品）の増加などが要因。業務形態の変化が数値の変動に大きく左右されるため、日々の環境活動が数値に反映されているのか評価が難しくなってきている。
			提供量調査(段ﾎﾞｰﾙ) ／ ＋15.4%　（-25.0%）	—	
	現場での製品カット端材の削減。	敷設現場において割り付け検討による廃棄物の減少を継続的に実施するために製品モジュールの多角的な検討を行う。	ベランダ形状がメーカーごとで多様化しており、プレカット製品の使用頻度は下がってきている。今後多様化するベランダ形状に対応しつつ、現場で加工しやすい、納まりやすい製品設計が求められる。		
	木製パレットの廃棄量を削減し、再利用を促進させる。	パレット購入量に対して再利用率500角で100%、600角で30%を目指す。再利用不能パレットの管理徹底および資源有効利用会社（バイオ燃料）へ提供を実施する。	500用･･･出荷数(購入)　2,542枚 提供数　3,048枚 ※再利用率119.9% 600用･･･出荷数(購入)　3,751枚 提供数　1,064枚 ※再利用率28.4%	△	木製パレットの再利用率は500用は119.9%と目標達成したものの、600用は28.4%と目標未達。600用は材料販売での使用比率が高いため再利用率が低くなるという実態があるため、今後費用対効果を考慮しながら600用パレットの再利用率を上げていく方法を模索していく。
環境配慮型製品の開発･販売の実施	1件／年以上の環境配慮型製品の実現を目指す。	2015年度末までに環境に配慮した新製品開発・改良に着手し、製品実現『1件以上／年』を目指すとともに、その迅速な普及を図る。	2015年度は製品実現が1件（住友林業フラット仕上げバルコニー）で目標達成。開発着手物件は2件（ｅ－デッキフラット表面テクスチャー変更、ハウスメーカー向け床下地パネル）となっており、開発検討を進めている。引き続き積極的な営業活動を実施し、1件でも多い製品実現を目指していく。	○	
	2015年度末までにエコマーク製品による事業拡大を目指す。	既存のエコマーク取得製品及び静岡県リサイクル認定製品の拡販を行い、2物件以上／年の採用を目指す。	2015年度の実績は0件と目標未達。2011年度からの累計件数は8件ではあるがここ2年は0件。エコマーク取得製品での営業活動での差別化を見出し、今後も受注拡大を図っていく。	×	

環境負荷データ ・ CO_2 排出量

当社では、事業活動における環境負荷量を調査・把握し、中長期目標を策定し、環境負荷低減に取り組んでいます。

I N P U T

エネルギー

- 電気：34,083kWh
- LP ガス：121 ㎥
- 灯油：402ℓ
- ガソリン：11,559ℓ
- 軽油：2,950ℓ

水資源

- 水道：770 ㎥

OA用紙

- ｺﾋﾟｰ用紙：786kg
- 帳票その他：66kg

O U T P U T

CO_2（二酸化炭素）

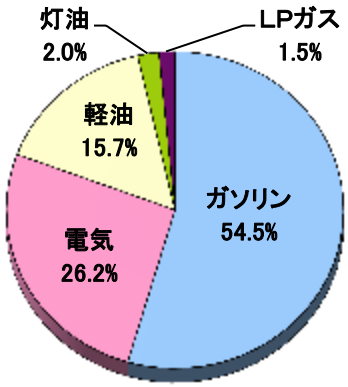
- 排出量：49.2t

廃棄物

- 不燃ごみ：187.7t
- 可燃ごみ：1.4t

リサイクル

- 紙：2.3t
- 包装・容器類：3t



2015年度 CO_2排出量内訳

※CO_2換算基準：事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン（試案）参考

環境パフォーマンス

環境保全活動

当社では、業務において常に「環境に配慮する」姿勢を意識すると共に、構内の整備・清掃状況についても常に監視し、適切な状態を維持することを心掛けております。

廃棄物量の削減

廃棄物排出量の削減とリサイクルの推進に向け、廃棄物の実態調査を行い、排出されたごみの分別を実施しています。

廃棄物処理方法の徹底を図る為、コンテナボックスに処分ゴミの種類を表示

パレット・フレコンバックの再利用

分別用ゴミ箱の整備

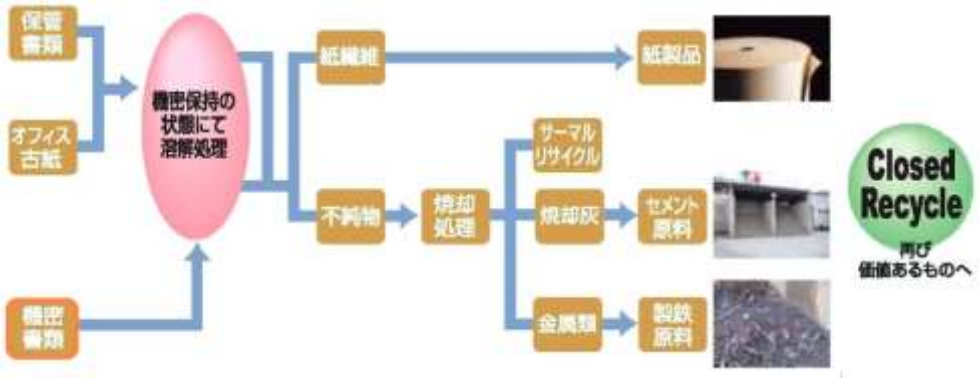
省資源・省エネ対策

当社では、省資源の観点から、コピー用紙裏紙再利用を推奨事項とし、その他『プロジェクター会議』『データのデジタル化（デリバリー業務の電子化）』など、ペーパーレス活動を日々の業務において実践し、無駄な紙資源消費軽減に努め、使用済みの紙は廃棄処理業者ではなく、再利用業者へ提供しています。

その他、事務用品のグリーン購入推進、節電対策として事務所窓への紫外線反射フィルムの貼付、室内電気スイッチ部分に「使用後は消灯」表示、排気ガス・騒音防止の徹底を促すアイドリングストップ表示と、常に環境保全に対する意識向上に努めております。

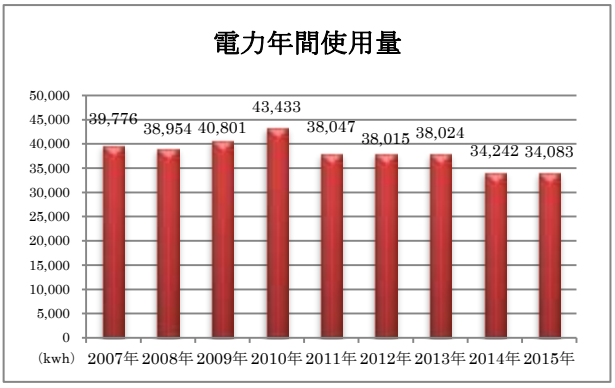
限りある資源の有効活用

弊社で使用した紙は、ISO27001（情報セキュリティメネジメントシステム）認証を取得している業者にリサイクルを依頼しています。溶解処理とすることで、機密は保持されたまま再生紙のほかセメント原料や製鉄原料へと生まれ変わっています。



グリーン電力購入

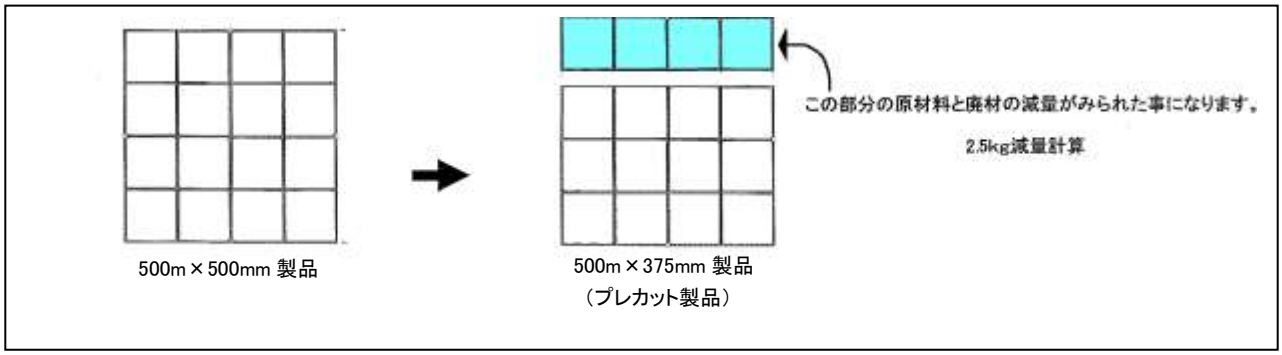
マックストン株式会社は、地球環境問題の一環として、日本自然エネルギー株式会社から「グリーン電力証明書」年間45，000kWh を購入する契約を締結しました。
今後これにより、当社は、直接発電設備を導入しなくても、自然エネルギーによる発電の普及促進に貢献していきます。



環境配慮型製品への取り組み

当社では、原材料と廃材減少・施工効率向上を目的としてプレカット製品の使用率アップに取り組んでいます。

例：500角平板「ルーフマット」



その他にも施工効率向上および廃材減少を目的とした、500角製品「割り肌125角」・300角製品「e－デッキシリーズ」もリリースしております。
また、「ルーフマットシリーズ」「e－デッキシリーズ」は、国土交通省の不燃材料認定試験に合格し、大臣より不燃建材として認定されており、火災防止など間接的な環境影響を防止する性能・効果を持っております。

リサイクル製品への取り組み

住宅業界においては、さまざまな分野におけるリサイクル特に大手プレハブメーカーにおいては工場出荷材の扱いの中で、各工場でのゼロ・エミッション化はもちろんのこと新築現場からいわゆる「ゴミ（＝廃材、余剰材を含む）」は必ず分別収集する時代から「ゴミ」を出さない時代へと大きな移り変わりをみせています。

産業構造が資源循環型へと大きく転換する中、また、地球環境保護などへの取り組みによって、当社では、違った側面から見ると環境破壊を率先してしまっているとも考えられる建築業界、主にハウスメーカーから投げかけられたリサイクル骨材を利用し、製品化に取り組んでおります。この瓦廃材は、いわゆる新築現場の端材、余剰品であり、一歩先を睨んでのリユースの取り組みであると言えます。

瓦粉砕骨材

陶板外壁リサイクル骨材

ＰＣブロック

Ｓ－デッキ

静岡県リサイクル製品認定取得

静岡県では、リサイクル製品の利用推進を図ることにより、廃棄物の減量と再利用を促進する循環型社会の構築を目指しており、平成17年度より静岡県リサイクル製品認定制度を創設しました。

この制度では、県内で製造・加工されたリサイクル製品の品質及び環境安全性について基準を満たした製品を認定する取り組みを進めております。

弊社ではこのような取り組みに参加すべく「高炉スラグ」を主としたコンクリート製品配合を開発し、リサイクル認定取得をいたしました。

≪２０１５年度開発・商品化≫

■生活環境改善商品開発

・生活環境における室内からベランダ、テラスへの段差解消（バリアフリー化）をするためオリジナル2重床システムを開発し、各ハウスメーカーや工務店などへの販売展開が進んでおります。

① ベランダ・バルコニーへの展開

■施工手順

１．マルチポスト設置

２．ボードデッキパネル敷設

３．仕上げ材敷設・完了

■施工事例

・S-デッキ仕上げ

・S-デッキ仕上げ

・ｅ‐デッキ（ピアット）仕上げ

・二重床システムの応用

② １階テラスへの展開

・ｅ‐デッキ（ピアット）仕上げ

緊急事態の対応訓練・準備

当社では、事故・災害などの緊急事態に速やかに対応し、環境リスクを低減するために緊急事態及び事故の可能性特定リストを作成し、予想される環境影響の予防又は緩和する為の手順を示しております。また、緊急事態対応担当者を設け、通報ルート等が的確に活用できるよう緊急事態への準備及び対応訓練を実施しています。

２０１５年度　緊急事態対応訓練

実施日時　2015年10月26日（月）
8:35～

場所　マックストン事務所内及び構内

参加人数　21人 （不参加 1名）

訓練概要　地震　中程度の揺れ （震度4程度）を想定した避難訓練と非常持ち出し品の確認
緊急性ランク ４ （やや高い） ・ 持ち出し品ランク C

確認事項
・緊急事態発生時の初期対応
・避難経路の確認
・避難場所の確認、人数の確認
・構内緊急事態対応担当者の行動確認
・持ち出し品の確認（ランクCを想定）

訓練内容　事務所内で地震が発生したと想定して、
まずは身の安全を確保（窓・棚・事務機器から離れる）後、
避難誘導班の指示によって、避難場所へ移動した。
その後、人数の確認を行い避難完了とした。

訓練の様子

専門業者による枝の
伐採処置完工後

公共道路・公共電気配線への影響を配慮し、
構内植樹樹木の伐採処置実施

ガラ（廃材）置場に高さ制限
の表示

強風時のゴミの飛散防止
対策としてネットを取付け

MAXSTONE